

3704

クロサイを飼育して

西山 登志雄

Keeping Black Rhinoceros in Captivity

Toshio Nishiyama

アフリカ生態園のクロサイは、昭和 27 年 8 月 3 日
来園したおすと、昭和 32 年 6 月 22 日来園しためす
の 2 頭です。おすは多摩動物公園の林所長が当園の飼
育課長時代はるばるアフリカまでとりにいったもの
で、皆さんの投票でサイタローという名前をつけても
りました。このサイタローが戦前戦後を通じてわが
国の動物園で飼われた最初です。来園しげらくは東園
シカ舎の一部に収容されていました。現在のめすは 2
頭目で、最初のは昭和 31 年 5 月 3 日に来園した
が、残念なことに胃カイヨウのため 225 日目に死ん
でしまいました。現在のめすはルルとよんでいます。

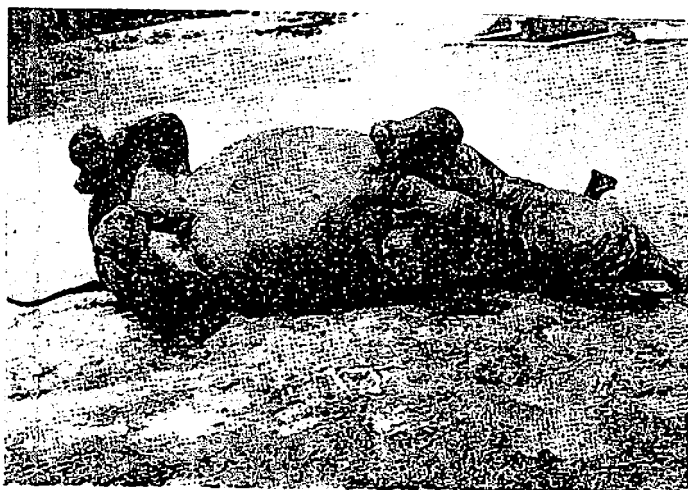
☆

サイといえどなんといっても角が第一にれんそうさ
れ、サイの一番の見世物です。他の有角獣の角とちが
って、はえる場所も鼻のすぐ上に縦に 2 本並んでいま
す。野生のクロサイのようにりっぱな長くてとがった
角は動物園に飼われているものではあまりみられません。
これはたえず角を鉄のおりやコンクリートの壁に
こすりつけるためです。運動場のトビラを木で閉んで
保護してからはへり方も少なくなりました。この角は
クロサイの唯一の武器といつてよく、敵に向うときは
巨大な体にひそむ力をこの角に集めて突進します。4、
5 人でやっとなぐさすことのできるコンクリート製の水

呑が、サイの運動場にありますが、いつかこれを反
対側のすみまで角でかんたんに押して行ってしまいま
した。ご承知のとおり、この角は皮膚に生えているも
ので、中に骨はとおっていません。組織学的には毛と
同じようなものだそうです。角をもって口を入れると
根もとのところで多少動きます。めすのルルが到
着したとき、狭い輸送おりから出したとたんにあばれ
て、角を根もとから折ってしまいました。角の落ちた
サイはなんとも不体ななものです。私達の心配する
うちにまたのびて、ちょうど 2 年目にまたの長さにま
で回復しました。

☆

サイ・ゾウ・カバを厚皮獣ということがありますが、
このうちでサイが水浴を好みます。泥あびをひんぱん
にする点で異例です。運動場におざわきプールを造
ってやりましたが、ほとんど入らず、1 年ころ、6 回程
度です。また入っても、叱られた子供のようになが
くめてじっとしているだけです。そのかわり泥あびは
夏の暑い日はもちろん、冬の雪どけ水でも凝って全身
に泥を塗るのです。お客さんは汚なかりますが、これ
をする日はサイの御機嫌は最高で、体の具合、の悪い
ときはしないのですからおもしろいものです。今まで
冬は、ルルが病気がちのせいもあって、夜室は多少暖



泥あび、気持ち良さそうでしょう

房してやっていたが、そうすると心
配なのは皮膚のヒビ割れです。ゾウやサ
イの皮膚はまるで靴の裏みたいに少々の
ことではびくともしない。革のように
思っておられる方も多いと思いますが、
実は結構血も通い、神経も通っています。
冬、空気が乾燥してくると、人間と同じ
ヒビが切れてくるのです。水かき
サイの体にお湯をかけてやるのは毎日
ですが、それでもおよばぬときは脂をぬ
ってやります。けれども、日本はどんなに
寒くても外に出して運動はさせます。雨
や雪は、サイは平気ですが、なぐさは苦
手らしく、落つきがありました。

サイの好物はと、お客さんによく聞かれますがボーキと答えておどろかせます。餌の時も、ボーキを見たとそれを先に食べます。変わったものではゴムホースがあります。ある時などは約 2m もたべ、心配しながら徹夜でおしりをながめていたこともありました。また通路に落ちていた、サマグチ・袋・ビニール製品など雑沓のものはなんでもたべてしまいます。ゾルも私のシャツもボーシもその食欲にギセイになんとかあいました。このような異物はともかくとして、クロサイの主食については案外盲点があるのではないのでしょうか。ごぞんじのように生息地の中央部はキリン・サイ・シ



げんか。8 月末日のことでした

マウマ・ニランドと4つの区画がありますが、このうち前2区に区別には草が生いけり、他はぜんぜん草が育ちません。サイ・キリンは草をあまり食べないからで、シマウマなどは食べてしまうわけです。このことでわかるようにクロサイはやわらかくてうまい牧草を好みます。若いカシヤシイの枝や葉を一番の好物にしています。野生ではアカシヤなどを食べているそうです。この子が食性によくあっているように思われます。

上クチゾルがとがって、その先に力を入れて餌を口の中に入れます。歯は奥歯だけでものをくいきる歯がなく、下に生えている草は喰いにくいような気がします。植付性の餌をとる場合一口に草食獣といいますが細かくは草食と葉食は区別すべきでしょう。餌については特に冬はその配合に苦労しますが、これはクロサイが葉食性の動物であるということに、カン所をつか

むむずかしさがあるように思われます。

おすとおすの同居は飼育中最大の難問題です。闘越しの長い見合いでは仲よくしているのですが、一たびいっしょにすると、非常に興奮して猛烈な角づきあいをはじめます。まだおぼえておいでの方も多いと思いますが岩波映画の『動物園日記』で、現在のおすと死んだめすとの間に繰りひろげられた情景がこまかに記録されております。現在の番はこの8月末日に同居させました。万全の注意をはらい、確信をもっていっしょにしたのですが、この時もめすは体中に10数カ所のつき傷をうけ、その後1週間も食欲なく、ふらふらしていたというわけです。途中めすの一年の病気がありましたが、実はこの番には4年以上にわたる見合い期間をおいたのでしたが、これもなんをとか無事に同居させ、めでたく結婚させたい気持ちからだったのです。外国の動物園関係の人が来たときはかならず、こ

のことに誤解を招いてきましたが、異口同音に斗争は避けられないとことで、やはりそうなのかなと思った次第です。それで現在のところでは、避けられないものならできるだけ被害を小さくするように、こゝでの同居のときは次の方法を考えています。第1に精神安定剤（トランキライザー）を投薬して興奮をある程度おさえること第2におすの角を切って先をさること、動物園に飼われる動物はすべて馴れていなければなりません。しかし野獣にはなれてもこえてはならない一線があることを私は決して忘れません。（上野動物園飼育課）



ツノ切り。だましだまし、おすの角を切り始めました